



オーガニックコスメ  
Organic cosmetics

無農薬のカミツレ畑。『アルプスのハーブ物語』シリーズで使用される。ほかにも、クラリセージ、ゼラニウム、メリッサなど多数のハーブが栽培されている。



長野県でシャンプーづくりのために浸けた、浸出植物エキス。



長野県飯島町のハーブガーデンでつくられた無農薬、天然成分100%の『アルプスのハーブ物語』シリーズ。主成分は蒸留水とコス種子エキスのみ。

# 天然成分だけで、オーガニックコスメはつくれる！ 地球がキレイの味方に。 オーガニックコスメの実力

オーガニックコスメと、通常のコスメにはどのような違いがあるのでしょうか？  
徹底的に天然成分にこだわる、日本オーガニックコスメ協会に話を伺いました。

石油由来の合成成分とは？  
今や聞き慣れた「オーガニックコスメ」という言葉。実は、日本オーガニックコスメ協会の代表、水上洋子さんが2001年に作った造語なのだそうです。同協会は、消費者の立場から安心・安全なコスメに徹底的にこだわり、オーガニックコスメの資格講座や独自の推奨基準などを設け、オーガニックコスメの普及活動を行っています。

「国から許可されている化粧品成分は、一万二千種類もあるので、どれがよくてどれが悪いのか、分かりづらいですね。2001年当時は、化粧品に関しては、オーガニックの規格もなく、専門家もいない状況でした。そこで最初に私たちがオーガニックコスメという言葉を作り、本も出版して、基準はこれですよ、と世に示したのです。私たちが大切にしているのは、自然を守る。『循環させる』ということ。オーガニックコスメが支持されれば、有機農産物を作る農家が増え、環境も良くなるでしょう。なので、オーガニックコスメは、天然成分のみで作ることを目指すべきだと考えています」  
実際、有機栽培された植物に、コスメの製造段階で、石油由来の合成界面活性剤や合成防腐剤が入れられてしまふことはよくあることなのだそう。  
「合成界面活性剤は水と油を乳化させる、合成防腐剤は製品を安定させるので、一般的な化粧品やシャンプーには普通に使用されています。しかし、これらの薬剤は皮膚を溶かし常在菌のバリアを壊す恐れもあるので、悪いものが真皮にしみ込む原因になってしまふのです。最近、子宮のトラブルで悩む女性が増えています。これらの成分が関係している可能性があります。皮膚から吸収された合成成分は、体内に排出してくれる酵素を持たないため、脂肪分の多い乳房や子宮に溜まってしまふと考えられているからです」  
石油由来の合成成分を使用しない、製品化できないと考えるメーカーが多い中、世界に先駆け、日本のメーカーはすでに100%天然成分で化粧品を作ることに成功しています。  
「たとえば乳化剤は、天然由来の界面活性剤のレシチンやラノリンで、防腐剤も抗酸化作用の高い植物で充分できます。もちろん製品化には高い技術が必要ですが、スキンケアからメイクアップコスメまで、天然成分だけで完結することは可能になっているのです」

## オーガニックコスメが心と身体に響く、3つの理由

肌につけた瞬間、全身が喜ぶのを感じるオーガニックコスメ。心と身体に、どのような変化が起きているのでしょうか。

- 1 肌の常在菌と共生できる**
- 2 施術者自体を癒してくれる**
- 3 生かされている感覚が生まれる**

石油由来の合成成分と違い、100%天然成分は肌本来の常在菌と共生し、健康的な肌を育ててくれる。逆に、合成成分が多数含まれる化粧水や乳液、美容液は、使った瞬間はキレイになるが、使えば使うほど肌本来の機能を衰えさせてしまう可能性も。

オーガニック栽培、天然成分のコスメを使うことで、施術者自身の心と身体も喜ぶので、疲れにくくなるという声も。また、有機農家などの生産者を支援することにも繋がり、コスメ自体にも愛着が生まれるので、お客さまに自信をもってすすめられるようになる。

人間だって、自然の一部。自分の中の自然が、オーガニックコスメを通して自然環境と共鳴し、生かされている感覚、孤独ではない感覚が芽生える。また、本来持つ五感が研ぎ澄まされるので、施術にもフィードバックされる。



協会の会長、水上さんも開発に関わるオーガニックコスメブランド『ARTE』の商品。栽培や製造にはもちろんこだわり、成分も天然成分に徹底している。



ドクダミを主成分とした『ARTE』の『後の園』シリーズの化粧水。成分はドクダミエキス、ローズマリーエキスのみ。



協会が推奨するコスメには、このマークが付与される。



バラの無農薬栽培から始めた『オールドローズ』シリーズ。成分はもちろんで天然成分。

せ、合成防腐剤は製品を安定させるので、一般的な化粧品やシャンプーには普通に使用されています。しかし、これらの薬剤は皮膚を溶かし常在菌のバリアを壊す恐れもあるので、悪いものが真皮にしみ込む原因になってしまふのです。最近、子宮のトラブルで悩む女性が増えています。これらの成分が関係している可能性があります。皮膚から吸収された合成成分は、体内に排出してくれる酵素を持たないため、脂肪分の多い乳房や子宮に溜まってしまふと考えられているからです」  
石油由来の合成成分を使用しない、製品化できないと考えるメーカーが多い中、世界に先駆け、日本のメーカーはすでに100%天然成分で化粧品を作ることに成功しています。  
「たとえば乳化剤は、天然由来の界面活性剤のレシチンやラノリンで、防腐剤も抗酸化作用の高い植物で充分できます。もちろん製品化には高い技術が必要ですが、スキンケアからメイクアップコスメまで、天然成分だけで完結することは可能になっているのです」

**profile**  
日本オーガニックコスメ協会  
水上洋子さん  
みなかみようこ JOCA日本オーガニックコスメ協会代表。作家。2007年日本オーガニックコスメ協会設立、オーガニックコスメ講座等を開設中。オーガニック商品のカタログ『オーガニック生活便』発行。オーガニックコスメ『ARTE』の開発も手がける。

木川恵さん  
きがわめぐみ 日本オーガニックコスメ協会認定インストラクター。オーガニックメイクアーティスト。